ムダのない、かしこく活力のある柏原市を作りたい、めざすのはスマートシティ柏原

柏原市議会議員

山口ゆか　柏原力UP↑

Vol. 7
29年新春号

9・12月議会＆活動報告書

日頃の活動報告はブログと Facebook で配信中
議会の動画は YouTube「柏原市議会」で検索

山口 ゆか　検索

交通インフラ整備を問う ― 東西道路の整備　鉄道の充実を

12月議会

ＪＲアンダーパス工事（大県本郷線）

問 柏原地区、国分地区とも南北には主要幹線道路が通っているが、それをつなぐ東西の主要道路がない。人の往来がまちの活性となり発展するカギとなるため、以前より道路の整備を訴えてきた。**大県本郷線**の工事がスタートしたが交差する**上市法善寺線**の計画はどうなっているのか。

答 文化センターから市民病院までの区間から更に、八尾市域の**神宮寺法善寺線**や都市計画道路**大阪柏原線**を経て外環状線に接続する計画があり、**八尾市と連携し国土交通省へ要望へ行っている。**この道路が完成すると、市の発展と活性化及び防災面、緊急道路として形成できることからさらに文化センターからＪＲ柏原駅へのアクセス路の整備も行いと考えている。また現在の計画から南への整備について、計画通りに整備をする必要があることは認識している。

要望 上市法善寺線は**柏原東小学校の通学路**にあたる。工事期間中はもちろん、完成したのちも施設一体型小中一貫校ができるまでは通学路であるため、子どもの安全を最重要課題として都市計画と教育が共通認識して取り組んでいただきたい。

ＪＲ柏原駅に常時、大和路快速の停車を

問 文化センターから柏原駅へのアクセス路の整備をすることでまちの賑わいができる。柏原駅前の区画整理に伴う人口増加が見込めれば、柏原駅に常時大和路快速を停車することも現実味が帯びてくるのでは。

答 ＪＲ柏原駅の乗降客数が増加傾向となれば協議を進めていく。

要望 乗客数が増えてからの対応ではなく、どうすれば乗客数が増えるのかを全庁的に取り組んでいただきたい。20 年前 30 年前の都市計画で今この議論をしている状況。だからこそ 20 年先 30 年先を見据えて今から構想を立てるべきだ。

本郷橋交差点（25 号線）の改良を

問 本郷と旧 170 号線を結ぶ北部に位置する本郷平野線は**重要な東西道路**であるが、25 号線の歪に交差している**本郷橋交差点**があり、角地に更地になっている箇所があるが活用はできないのか。

答 国土交通省がすでに測量をしており、用地交渉に進んでいる。

ＪＲと近鉄の連絡を

ＪＲと近鉄を連結させることはできないか。柏原駅と堅下駅を一つの駅に、という構想を私は抱いている。もしくは市庁舎の裏のあたりには２本の線路が近距離になる箇所がある。庁舎を建て直す際、安堂駅を移設して複合施設にできないか。

地下鉄谷町線の八尾南駅から柏原駅に延伸できないか、という夢もある。可能性はゼロではない。柏原の財産は交通の要所であること。しかし道路行政が進まなかったので活用できていない。柏原市の未来のために、今こそ交通インフラに力を注いで。

上市の２つの踏切

上市にＪＲと近鉄道明寺線の線路に２つの踏切が続いている危険箇所がある。以前歩道の拡幅工事をしたからこれ以上の策を講じないのではなく、２つの鉄道会社を挟む難しい案件ではあるが市民の命を守るためにどうすればよいのか、今一度検討を。

田辺旭ヶ丘線の今後

国分地区の道路も東西道路が極めて乏しい。慢性的な渋滞の緩和のためにも前に進めていただきたいということが私の考えである。

法善寺駅、堅下駅にエレベーター設置を

近鉄法善寺駅、堅下駅のエレベーター設置に向けてバリアフリー基本構想を平成 29 年度から 30 年度で予定どおり策定を。
国分駅での痛ましい事故が二度と起きないように落下防止柵（**ホームドア**）の設置を。阿部野橋駅設置に追随できるよう働きかけを。

行財政改革は機能しているのか

12月議会

答 実績は計画額より約１億円あまり達していないため人件費の抑制や新電力の導入など新たな取組を実施し見直しを図っている。

問 国や府の動向にアンテナをはったり、他の自治体で参考になる事業の研究などをする専門部署の配置についての見解を伺う。

答 企画調整課で各課に散らばっている情報を一元化している。

要望 企画調整課の業務が多様化・複雑化している。収入を増やす部門と支出を削る部門は分けるべきでは。また、市長や職員が政策を立案する際に**初動政策課**とか**機動戦略課**など新たな部門の検討も。

謹んで初春のお慶びを申し上げます。
早いもので本年が市議会議員の任期最終の年となりますが、私の**松柏の操**は守り続けてまいります。様々な困難があったとしても私らしくあり続け、柏原市民ファーストで初志貫徹の決意で挑んでまいりますので、温かいご支援ご指導賜りますようお願い申し上げます。

松柏之操
しょうはくのみさお

国が推進する女性活躍推進法において柏原市の施策と今後のビジョンを問う

「女性が働きやすい環境づくり」

答　従来より「男女共同参画の推進」に取り組んでおり、さらに市内事業所への啓発を図っていく。

問　少子高齢化による労働人口の減少分を補うため、女性の労働力が求められており、政府がいろいろ制度改正の検討を始めている。１０３万円の壁と言われていた**配偶者控除を見直し**、夫婦であれば適用する夫婦控除を検討している。（９月時点）
また、働き方改革で残業や育休などが見直され、日本全体の働き方が大きく変わるこの流れのなか、柏原市もまた、女性の活躍を推進していくことが求められている。

共働き世帯が増えることで、女性と残される子どもの環境が変わっていくだろう。女性が働くにあたって子育てのほかに就労や税金の問題などの不安に対して具体的な取組はしているのか。

答　相談事業や女性の社会進出の推進に取り組んでいる。就労を希望する子育て中の女性にアンケート調査をしたところ、「収入と社会保険の関係や配偶者控除のことがよくわからない」などの意見が多かったため９月に講座を開催している。今後も働く女性の不安を解消するため庁内各課や専門機関と連携して取り組んでいく。

要望　働く場所や職場づくりは企業や組織が取り組んでおり、イクボス宣言もそのひとつ。働く女性の動線を考えた暮らしやすい市民生活に市政は取り組むべき。「**働きながら、子育てするなら柏原市。**」をモデルに働く世帯の流入・定住化促進を。

山口ゆかの考える子育て世代への支援

女性の社会進出の後押しが必要となってくるが、働きやすい環境に変わらなければ女性の負担が増すだけとなる。子どもを預けやすい、仕事帰りに買い物がしやすい、病院の救急体制など、いかに女性目線でまちづくりがされるかで、魅力あるまち、住みやすいまち、働きやすいまちになるか決まるのではないか。

女性が働くことで共働き世帯の収入が増え、家庭が潤い、消費も上がる。すると市税収入も見込め、高齢者への福祉予算や子育て・教育予算などに配分していくことができる。そこで見逃していけないのは、収入の格差がでてくるひとり親家庭への支援。
共働き世帯も、ひとり親世帯も、そのすべての子どもの幸せのために行政としての役割がある。

「子育て支援」　9月議会

答　まずは０～２歳の低年齢児の入所枠を拡大し、待機児童の解消に努めている。そして小学校の放課後児童会でも定員超過しているが申請者全員が入会できている。今後のビジョンは「公立幼稚園及び保育所の再編整備に関する基本計画」を着実に実現していくこと。

問　厚生労働省が保育所の待機児童の定義の見直しを検討している。（現在は希望する保育所に枠がなく行政から指定された保育所に入らない、兄弟で同じ保育所に通えないケースなどカウントされない）「**隠れ待機児童**」が浮き彫りになるかもしれない。
そして**放課後児童会の開所時間の延長を**。保育所は７時半～ 19 時の保育時間であるのに子どもが小学校に上がると同時に働く環境を変えざるを得ない状況が現に発生しているため。**保育の需要**に対する受け入れ体制はどうか。

答　こども未来プランで平成 31 年までの保育需要の見込みに基づき、進捗状況の確認をしながら修正し、供給していく。

保育所の入所基準は点数方式であり、加算条件を知らないと不利な状況もある。こども未来プランの需要の見込みというが、市民の声のアンケート結果を見てみると、例えば**病児保育**の需要と供給のバランスが合わないのでは。「仕事と子育てを両立させる上で大変だと思うこと」の一番多い意見として「子どもが病気やけがをしたときに代わりにこどもを見てくれる人がいないこと」である。実態に即したものであるのか、大きなズレを感じる。

問　子どもの情報を共有する何かネットワークは取り組んでいるか。

答　要保護児童対策地域協議会（児相･家庭センター･保健センター･学校・病院等）を設置し、情報共有が必要であると判断される子どもについて関係機関で連携し取り組んでいる。

先ほどのこども未来プランのアンケートに「子育てが地域の人に支えられていると感じるか」に感じると答えた人が７割近くおり、「誰に支えられているか」にはいわゆるママ友が１番、**近所の人**が２番目に多い答である。私も実際に日々感じていることがこのように数字に表れている。（社会教育課が実施する**通学合宿**でも健全育成会の方々がお手伝いされていて、地域と子どもの交流が図られている）

小中一貫教育校から義務教育学校へ　12月議会

問　義務教育学校の制度化を受け、一小一中で施設が隣接している環境をふまえ、まずは堅上・堅下南小中学校から義務教育学校を導入してはどうか。

答　義務教育学校の成果と課題を丁寧に検証し、導入しやすい堅上・堅下南小中学校の義務教育学校の設置も視野に入れ、小中一貫教育の更なる推進をめざしていく。

問　一つの義務教育学校で９年間学ぶことになり、戦後教育体制の６・３制の学制にこだわることなく現代の子どもの成長に合わせた学年割も期待できる。（※下記に学制についての考え）

昨年、柏原中学校区の再編を見据えて耐震工事の予算を減額する案を出されたが、地元住民の意見を聞く前の提案だったことなどから撤回することになった経緯をふまえ、学校再編へとこれから大きく舵を取っていく際には、同じ轍を踏まず地域との連携を図りながら進めていただきたいが見解を問う。

答　学校再編整備に伴い、住民説明会や地域懇談会を開き、より良い教育環境の充実に向けた共通の認識を持ち、丁寧に進めていく。

山口ゆかの考える学制		
	1～4年生	基礎学力教育・道徳情操教育を徹底
	5～7年生	社会とのかかわり方・人間関係・応用力
	8～9年生	夢への挑戦・実現のための努力

3年間の取組や提案

- **人口増加施策→出生率向上のため女性目線のまちづくり**
  →幼小中一貫教育で母性の気づき
- **都市部へのアクセスの利便性を最大にPRして定住化促進**
- **子育ての不安解消に保育コンシェルジュの配備を**
- **待機児童問題の解消のため受け入れ枠の確保を**
- **病児保育や放課後児童会の拡充を**
- **出産費用の見直しや支援**
- **多子多産世帯に住宅支援**
- **商工業の活性化とPRの促進**
- **企業誘致で法人税収の向上**
- **東西道路の重要性**
- **市域全体へのWi-Fi設置**
- **新電力の導入で費用削減**

平成28年の取組

- 山（休耕地）を活用して就農促進を、**季節ごとの花**で観光地に
- 空き家対策には各課連携としたプロジェクトチームが必要
- 水仙郷への看板や案内標識などを整備してさらなる訪問客の増加を
- 還付金詐欺や警察や職員へのなりすまし詐欺が急増、消費者保護対策を
- 不審者情報も多い、まちの防犯カメラ増設など対策の強化を
- ぶどう狩りに英語表示の案内などの宣伝効果でインバウンドを活用

後援会会員を募集しています。ウェブサイト・電話・ＦＡＸ・メールで随時受付中！

山口由華後援会
〒582-0005　柏原市法善寺 2-3-23
tel. 072-921-7430　fax. 072-926-5077
Web サイト
http://yamaguchiyuka.com
Ｅメール
info@yamaguchiyuka.com

発行・編集　山口ゆか事務所　〒582-0005 柏原市法善寺2丁目3−23　TEL 072-921-7430　討議資料